

～吹田の三名水を訪ねて散策しませんか！～

大阪のベッドタウンとして発展した吹田市、今では住宅地が広がり、緑地は少なくなりましたが、古くは名水の町として知られていました。箕面から千里へと続く丘陵地帯の南端で、湧き水や井戸水の豊富な「垂水の瀧」「泉殿霊泉」「佐井の清水」が吹田の三名水と呼ばれました。



垂水神社



垂水の瀧



泉殿神社



泉殿霊泉



佐井寺



佐井の清水

「垂水の瀧」は、そんな吹田市に残された貴重な自然林、垂水神社の鎮守の森から湧き出ます。その昔は「その泉沸くが如し」と言われる程の水量を誇っていたそうですが、今では水脈が細り、三箇所から雫を垂らすだけになっています。

「泉殿霊泉」は、泉殿神社の境内にある井戸で、干ばつが起き「建速須佐乃男」に祈願したところ、境内の土中より清泉が湧き出し、田畑が潤ったと伝えられる。東洋初のビール醸造工場をこの土地に建設するきっかけとなった水だという逸話が残っています。同水系でビールの醸造が始められた後、近隣の都市化を見届けるように霊泉は地中深く水脈を移し、残念ながら今は湧き出していない。

「佐井の清水」は、行基の祈願によって湧き出した「霊泉」と伝えられ、病気の回復、特に眼病に効き目がある霊泉として信仰されていたそうです。水源は「伊射奈神社」の西辺りにあり、現在は「佐井寺」の境内に細々と引かれています。

遥か遠い昔に思いを馳せながら、居住する地区のすぐ近くにある旧跡をご紹介しました。

吹田3地区委員 河村和夫(記)